

# 2018.8.20～23 長野大学環境ツーリズム学部「地域調査演習」の授業の一環で、天龍村で9名の学生の受け入れを行いました。

◆長野大学環境ツーリズム学部相川先生が担当する、「地域調査演習」の調査フィールドとして天龍村を採用していただき、村と村の地域おこし協力隊が調査のお手伝いをさせていただきました。この授業のテーマは「地域支援人という生き方に学ぶ」をテーマに、都市部から地方に移り住み、村で活躍する地域おこし協力隊が天龍村に来た背景や、活動内容のフィールドワークを通して、学生らが感じる「地域支援」とは何か？を考えるものです。

◆4日のプログラムのうち、最初の2日間は3人一組で協力隊1人ずつからそれぞれの活動や、協力隊として村に来た背景などを1～2時間じっくりとインタビューした後、実際にフィールドワークを行いました。3日は坂部地区に入り、協力隊OBや地域の方と実際に交流し、ワークショップを開催しました。最終日はこれらの活動を振り返る簡単な報告会が行われました。学生らは今回の調査を踏まえてインタビュー内容や実際に目で見ただけのものをもとめ、それぞれの考察を加えて調査結果をまとめていくようです。



◆学生の大半が県内出身で、長野・上田エリア出身だとなかなか南信州へ来る機会も少なく、同じ長野県内でも風土や人柄などに違いを感じる方が多かった印象でした。調査や研究をしていくうちに、多くの学生は天龍村についての知識を深めていき、興味を持っていただけた方からはまた訪れたいという意識も生まれた印象を受けました。10月には係と協力隊が大学へ出向き、学生が行った調査研究の成果発表を聞くとともに、地域課題をテーマとした講義を実施させていただく予定です。

最後に、最終日の報告会には南信州新聞社の記者の方も駆けつけていただき、記事を掲載していただきました。ありがとうございました。